

新 市 町

にいほり 新治村

1. 沿 草

この村は土浦からバスで30分、新治郡の西部、筑波山系の山麓地帯に位し、南は土浦市および桜村に接し、東は千代田村、北は林野を境に八郷町と隣接している。この地方は昔常南の小田氏と常北の雄、佐竹氏が互いに勢力を競って争った地方であるが、昔からの筑波街道に宿場として発達しており、今では土浦市から下館市に通ずる国道、石岡市から筑波に至る県道がそれぞれ村内を横断し、また筑波鉄道が南端を東西に走り、農村地帯としては交通が誠に便利である。昭和30年7月27日には、藤沢、山ノ荘、斗利出の三村が合併して今や面積32.87平方杆、人口9,085人(男4,463、女4,622)、世帯数1,687を有する(昭和32年4月毎月人口調査)純農村として発達し、村民の融和と生活水準の向上のために力強い足どりを示している。

2. 産 業

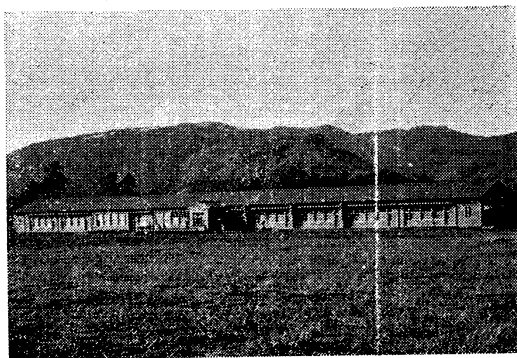
まず農業面を見ると、ここは山麓地の一部を除いては、おおむね平野で地味は肥沃、農耕に適しており、農家戸数1,334戸、農家人口7,554人(男3,738、女3,816)、耕地面積1,476町(田651.2町、畑620.9町、樹園地203.9町)を有している。(昭和32年2月1日冬期調査)中でも麦類422町、大豆123町、たばこ52.7町などが多く、特産物としては最近すいかが合頭し(藤)のマークで神田市場をはじめ、北海道まで142万メも出荷して大変好評を博している。また養蚕戸数は302戸、桑園146.5町、取繭高年間14,197メにのぼっている由。次に畜産面を見ると、乳牛182頭、役牛655頭、馬136頭、めん羊78頭、山羊159頭、豚827頭、兎1,432頭、にわとり12,036羽を有し、酪農組合や種豚組合の強化拡充に伴って畜産の振興策が功を奏しているようである。また農機具の普及状況を見ると、電動機384台、石油発動機212台、ハンドトラクター9台、動力耕うん機1台、動力脱穀機416台、足踏脱穀機425台、動力糶すり機317台、動力製粉機178台、動力用噴霧機7台、人力用//548台、動力精米機178台、ダスター15台、動力製筵機13台、//製細機198台、足踏//708台、畜力カルチベーター75台、畜力水田中耕除草機23台、畜力碎土機876台、いも糠飼料機5台、畑用播種機445台、畑用畜力すき500台、水田用606台にのぼり、農業の機械化が次第に進んでいる。ここでは昔から土地改良事業が進んでおり、桜川の自動堰をはじめ用排水路の改修、深井戸の利用などによ

つて受益面積は実に300町に達しており、果樹園芸作物の奨励による換金作物への転換と相まって農家収入源の増加を計っている。

次に商工業面を見ると純農村なので特に見るべきものはなく、商店数は法人および常用労働者を有する個人商店11、従業者数54名、年間販売額3億6,630万円、常用労働者のいない商店86、従業者数164名、6月中販売額636万円、工場数は26、従業者112名、年間製造出荷額5,291万円に過ぎない。

3. 教育文化

ここには小学校4、中学校1あつて、小学校児童数1,196名(男615、女581)、中学校生徒数621名(男322、女299)を有しているが、町村合併とともに中学校の統合計画を進め、教育の伸長と経費の節減を計るために昭和31年から藤沢地区に2カ年計画で新校舎を総工費2,300万円を費して建築し、4月から開校している。またPTAや母の会の動きも活発で、校外補導や視聴覚教育に大きな効果を収め、県下でも有数の実績をあげており、視察客も非常に多い由、また国民健康保険事業も全村に実施され、年間764万円の予算で充実した運営を行い村民の保健、医療の向上に大きな役割を果している。藤沢には小田城の出城であつた藤沢城跡があるけれども、昔吉野朝の忠臣万里小路中納言藤原藤房郷がここに流されて1年間滞在したことがあり、頭髪を切つたといわれる髪塔塚が残っている。また山ノ荘には坂東26番の南明山清竜寺観音、桓武天皇の御代に最上人が開いたと伝えられる国宝の朝望山東城寺観音があり、斗利出には乗海上人の開いた東福寺があり、寺宝の金剛力士は雲慶、湛慶の名作といわれる。



(新築中の新治中学校舎)

4. 財 政

歳入	村民税	固定資産税	自転車荷車税	たばこ消費税	電気ガス税	地方交付税	国庫支出金	県支出金	その他	合計					
入	3,880,000	10,087,000	1,039,000	1,659,000	674,000	9,000,000	712,000	852,600	1,494,500	29,398,100					
歳出	役場費	議会費	警察消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	統計調査費	選挙費	公債費	予備費	諸支出金	財産費	合計
出	7,515,325	982,370	1,979,846	1,300,000	5,427,095	1,127,279	923,772	3,986,496	211,277	62,400	934,517	445,239	4,212,700	139,790	29,398,100

村の横顔

茨城町

1. 沿革

この町は東茨城郡の中南部に立し水戸からバスで40分、北は水戸市に接して6号国道の左右にまたがり、東は石崎、旭村の二村に連つて沼沼に臨み、西は内原、美野里村と友部、岩間町の各町村に接し、南は鉾田、小川の両町に隣接して東西14k、南北13.6kという広大な地域にのぼっている。昔この地方は仲国に属し、鎌倉時代には大塚氏の支配下に入つて小鶴庄、八部郷、島田郷に分れ、その後は江戸氏、佐竹氏、徳川氏の所領となつたが、幕府の直轄地や旗本の采地も少なくなつた。明治4年の廃藩置県によつて水戸県、守山県、若森県、松川県にそれぞれ分れたが同年11月にして茨城県に編入されたのである。昭和30年2月11日長岡町の誕生とともに隣の上野合、川根、沼前村を合併し、今や面積91.79平方千、人口25,396人(男12,417、女12,979)を有する(昭和32年4月毎月人口調査)大規模な町として、その名もふさわしい茨城町が発足したのである。

2. 産業

まず農業面を見ると、この町は概して平坦で中央を貫く寛政川、逆川をはじめ、西から東へ貫流する沼沼川、沼前川、巴川などの流域は低地で水田が多く、また山林も少なくない。農家戸数は3,789戸、農家人口22,413人(男10,867、女11,546)、耕地面積3,873.5町(田1,248.1、畑2,513.9、樹園地111.5町)、山林2,811を有しているが中でも豆類341.5町、らつかせい247.7町、さつまいも606町などが目立っており、最近では果樹園芸作物の奨励を計つて農家収入の増加を期している。また養蚕業は昔から盛んで養蚕農家は623戸、桑園1,670町、年間取繭高は実に20,247メにのぼっており、農家経済の大きな収入源となっている。次に畜産面を見ると、乳牛293頭、役牛2,013頭、馬193頭、めん羊53頭、山羊291頭、豚1,980頭、兎397頭、にわとり27,889羽、を有し、農業の有畜化が急速に進んでいる。

次に農機具の普及状況を見ると、電動機77台、石油発電機122台、ガーデントラクター2台、動力耕うん機19台、脱穀機371台、足踏脱穀機2,052台、動力糶すり機112台、製粉機48台、精米機122台、精麦機119台、動力噴霧機2台、人力用噴霧機67台、動力製麵機5台、製糶機1,362台、畜力カルチベーター72台、足踏製糶機1,362台、畜力水田中耕除草機7台、畜力砕土機242台、動力用いも糖銅料機2台、畑用播種機1,147台、畜力すき(畑用)213台、(水田用)94台に達している。この町の長根地区は昭和31年度から、上沼地区は昭和32年度からそれぞれ農村振興計画(5カ年)を樹立して、土地改良をはじめ未利用資源の効率的利用、農道の整備、機械、家畜の導入、果樹、蔬菜類の伸長を計り、従来の単純租放の主穀経営から脱却して農業経営の有畜化、機械化、多角化を推進しており、農村振興計画指定町とともに新市町村建設計画モデル町や国民健康保険施設モデルとして、県内は無論全国からの視察客でにぎわっている。

4. 財政

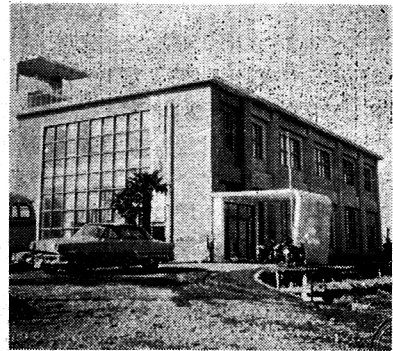
歳入	町税	地方交付税	公営企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	町債	合計			
入	34,934,905	19,500,000	44,008	483,000	956,864	1,304,420	1,250,002	2	500,000	362,003	6,000,000	65,335,204			
歳出	議会費	役場費	警察消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
出	1,670,550	14,165,875	3,521,680	4,488,700	23,878,225	970,340	1,381,500	6,189,599	252,980	286,157	194,600	684,428	6,742,272	908,298	65,335,204

さらに町としては、恒久性のある特用作物の奨励と販路の拡張維持、技術の改良を促進するとともに農協組やその他産業経済団体の統合強化を計り、農家経済と生活水準の向上を期している。次に水産業を見ると約100町歩(町区域内)にのぼる風光明媚な沼沼において、農家の副業として行うもの95世帯、従業員152名で毎年魚類6,500メ、貝類30,000メを漁獲している。

次に商工業面を見ると、法人および常用労働者を有する商店18、従業員94名、年間販売額1億7,774万円、常用労働者のいない商店196、従業員374名、6月中販売額1,368万円で、おもに食料品小売業や洋品、雑貨小売業が多い。また工場数は24、従業員110名、年間製造出荷額は7,287万円に過ぎず、澱粉工場やセメント工場が若干目立っている。

3. 教育文化

ここには小学校7(分校5)、中学校4あつて小児童3,648名(男1,881、女1,767)、中学生徒1,621名(男819、女802)を有しているが、最近羽鳥分校の新築を行い、将来はモデル校を設置する計画であり、またこの地方は国民健康組合が普及発達しており、合併と同時に上野合地区も含めて全町一斉加入を実施して、年間予算1,974万円余、診療所675万円余を投入し、町民の衛生思想の普及と医療保健の改善向上に大きな役割を果たしている。町では珍しい共同浴場もこのほど完成し、公民館の新築も決定したので、町民の慰安をはじめ、文化活動や生活の科学化、諸儀式の簡素化、衣食住の改善合理化を婦人会や青年会の協力を得て推進している。また町内の県道はすべてバス路線が開通しており、農村地帯にしては非常に発達している。ここには名所旧蹟として長岡の楠公神社、天然記念物で樹齢1,000年といわれる大戸の桜、小幡の干貫桜、鳥羽田の円福寺などがある。また町庁舎も昨年5月17日奥ノ谷に建坪二階建260坪、工費1,600万円で近代的な明るいガラス張りのモダンな建物を完成し、他市町村の注目の的になっている。



(新築成つた町役場)